

先日、小学校の卒業生から連絡があって「小石川植物園にオニフスベが生えているので、是非見に行ってください」と書いてありました。「オニフスベ」*Calvatia nipponica* は、ハラタケ科ノウタケ属に属するキノコです。漢字では「鬼贅」と書き、「鬼のコブ」といった意味です。

その最大の特徴は「巨大さ」です。キノコというと、「傘と柄がある」いわゆる「キノコ型」を想像しますが、オニフスベは柄も傘も持たず、ただ巨大な白いボールが地面に転がっているだけ、というシロモノです。「日本最大のキノコ」と表現されることもあります。これは正確ではなく、大きさでも重さでも「サルノコシカケの仲間」や「束生するマイタケの子実体塊」のほうがはるかに巨大です。しかし、短時間で成長する単独の子実体としては、確かに最大でしょう。

私はさっそく、腰の怪我を気にしつつ、植物園に見に行ってきました。大きさは直径30cmほど。オニフスベとしては小ぶりです。大きなものは直径50cmにもなります。小さな子実体は、内部が「ハンペン状」で、食用にもなります。私は小さく切って味噌汁の具にしたことがあります。まあ、うまくもまずくもありませんでした。このあと成熟すると、内部の水分が抜けて「古綿状」に変化し、内部は孢子まみれとなって、孢子を拡散します。その様子ももう一度見に行きたいと思っています。場所は小石川植物園の売店脇の「標本木園」の角です。「オニフスベを見られます」という仮設の看板が出ています。見つからなかったら、売店のママさんに聞いてください。

(2024年9月上旬/小石川植物園)

